

檀信徒各位

せ が き
大施餓鬼法要のご案内

聖 名 酷暑三伏の候と相成りました。

皆々様にはご健勝の事とお慶び申し上げます。

お盆の季節を迎えるに当たり、勤められてまいりました大施餓鬼法要を、今年も浄土宗久留米門中寺院ご出仕のもとに、下記のとおりつとめます。ご多忙の処とは存じますが、お繰り合わせご参詣下さいますようご案内申し上げます。 合 掌

平成 27 年 7 月上浣

無量寺 住職 堤 俊翁 拜

※期 日 7 月 15 日 (水曜日) 午後 1 時よりご回向^{えこう}
午後 2 時より法 話

※布教師 藤野 良海 師 (神崎市 浄圓寺御住職)

※ご回向料

特別^{とうばえこう}塔婆回向 1 霊 10,000 円 以上

今年初盆を迎えられるご先祖様

特に志される霊位

(塔婆を持ち帰ってお盆までお祀り下さい)

普通回向 1 霊 1,000 円 以上 ご志納下さい。

※お供え料 随意ご志納下さい。

法要および日々のご本尊様のお供え、お花代等にさせていただきます。

特別塔婆回向を申し込まれる方は、準備の都合がありますので、事前にお申し込みいただきますようお願いいたします。

お申し込みは郵送、ファックスでも結構です。FAX 番号 0942-32-2701

同封の申込用紙に記入のうえ、**7 月 10 日**までにお願ひします。

しょうろうだな お盆の精霊棚



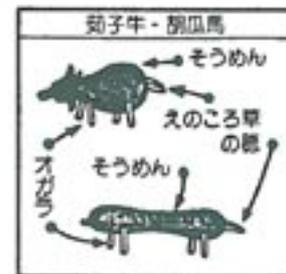
精霊棚はお盆の間、ご先祖様がおられるところです。毎日、家族の食事の前には供養をし、それから、食事を始めるようにしましょう。

地方によっては、この間の献立が厳格に決められているところもあります。

普通はそこまでしなくても、家族の食事の一部を供えたり、故人の好物を供えるということになるでしょう。



略式棚



ミソハギとは

ミソハギは高さ1m近くに成長する多年生草本。本州以南の沼地や田圃の周辺など、湿った明るい場所に生育する。全株無毛、茎は上部に至るほど四角形の断面となり、不明瞭な稜がある。葉は対生し、花弁は6枚。6月から8月のおわりにかけ、紅紫色の花を次々と付け、花期は長い。花弁はしわがよっている。よく似たエゾミソハギは毛があるので区別できる。



※精霊棚が普段の仏壇と違うのは、水の子（茄子とキュウリを細かく刻んで洗米と混ぜたものを蓮か里芋の葉に乗せる）と調伽水（どんぶりに入れた供養の水）、それに茄子の牛とキュウリの馬を用意することくらいでしょうか。

※お参りの仕方

お参りする人は、ミソハギの束の先をどんぶりの調伽水に浸け、水の子にふりかけてから（洒水）、拝むようにします。

ミソハギは他のもので代用できます。お盆に祭られる精霊棚（しょうろうだな）は別名、盆棚、魂棚、先祖棚ともいい、お盆の間、ご先祖様が宿るところといわれています。

期間中の供養はここでを行います。仏壇とは別にするのが一般的なやり方です。

精霊棚は普通、10日から13日の朝までには作ります。

※新盆の家では、1日ごろから作ることもあります。

以上ごく一般的と思われることを説明しました。

法然上人絵伝

第八卷第四段

勢至菩薩、法然上人の念仏行道に加わる

古代インドでは礼拝のために仏または塔の周囲を右回りする作法が行われていた。日本の各宗でも、重要な法会の際には、経文や梵唄を唱え、散華しながら堂内を練り歩く儀式が行われている。

建久九（一一九八）年正月、念仏に邁進してひとつの境地に達された法然上人に、勢至菩薩や阿弥陀三尊仏の来迎があつたことは明らかであるが、あるとき上人が草庵に帰ると阿弥陀三尊が浮遊していた。不可思議なことに絵像でもなく、木彫仏でもない。垣を離れ、板敷きにも天井にもつかずにぼつかりと浮いている。これを見た上人は、うれしさのあまり合掌してひざまずき、念仏を続けて供養された。その後、はこうしたことが度々あつたという。『選択集』を撰述した法然上人は、所々で別時の念仏を行うようになった。

第 87 号
元久二（一二〇五）年正月一日より
靈山寺で三七日の別時念仏を行った。
ところが灯りをつけないのに光明が



あつた。第五日の夜、念仏行道していた信空上人は、勢至菩薩がその列に加わって行道している姿を見た。そこで信空上人は法然上人にそのことを申し上げると、法然上人は「そういうこともあるだろう」と答えられた。

しかし一緒に行道していた他の人々には、勢至菩薩の姿は見られなかったという。

佛教の教え

人生の不安と苦

釈尊は人々との触れ合いの中で、高邁な仏道の理念から、日常生活になじみやすい具体的な問題まで提示してきた。とくに、人間のもつ悩み、迷い、欲望のあり方をいかに克服するかが最大の懸案であつたが、それを身を以て教え示してくれた。所詮、人間としての存在そのものが、不安をこそ、本来の在り方として有しているものである。人生とは、不幸や恐怖や不安の満ちで語られる。この人生が不幸に満ちていれば、生きてることが苦しいことである。逆に、この人生が楽しいれば、死ぬということは恐ろしいこととなる。生を苦しいと思うことも、死を恐ろしいと思うことも、不安を本来の在り方とする人間そのものの姿である。釈尊はこの不安を苦ととらえた。この苦には、いわゆる肉体的苦痛と精神的苦悩の両面を含んでいる。

とりわけ、佛教で解脱を得るために乗り越えなければならぬものは、人間共通の命題である「四苦」であろう。すなわち生・老・病・死の苦しみは、人生において避けることのできない悩みである。

生まれること、老いること、病むこと、死ぬことという四つの苦悩は、どうにもならないものである。結局この「苦」とは「どうにもならないもの」を意味していた。この四苦の解決こそ、人生最大の課題であるが、釈尊は二千年数百年前に、この課題に取り組み、解決の道を示していたのである。

四苦八苦ということばがあるが、八苦とは四苦にさらに次の四苦を加えたものである。愛別離苦（愛する者と別れる苦しみ）、怨憎会苦（怨み憎んでいる者と会わなければならぬ苦しみ）、求不得苦（求めるものが、どうしても得られない苦しみ）、そして五陰盛苦（人間を形成する五つの要素から生ずる心身の苦しみ）をいう。

このような分類から、釈尊は「人間の在り方を追求していった。心身をわずらわせ、悩ます精神的はたらきを煩惱と呼び、その中でも根元的な煩惱として、むさぼり（貪欲）、いかり（瞋恚）、おろかさ（愚痴）をとくに三毒と呼んで、これらの煩惱の超克こそ、ほんとうの安らかさを得ることになるとされたのである。

シリーズお葬式

葬儀とは？ 告別式とは？

葬儀とは一般に葬式とも言いいますが、正確には葬儀式と言ひ、亡くなられた方の冥福を祈り、別れを告げる儀式のことを言ひます。

古代インドの理想的な王であった転輪王の葬儀がその原型となりますが、それは遺体を布や綿で巻き棺に入れ、香木の上に載せ火葬にし、その後塔を立て供養するものです。

こうした由来に基づき仏教各宗がそれぞれの宗義にあわせて葬儀を行つてきています。

人の弔い方には、土葬、水葬、鳥葬、火葬などがあります。仏教では火葬を本義とします。

葬儀式には、寺の堂内や葬儀場で行う堂内式、外で行う露地式、火葬・土葬の現場で行う三昧式、自宅で行う自宅式などがありますが、今日ではほとんどが堂内式、あるいは自宅式です。

そしてそれぞれに密葬と本葬があり、後日に本葬がある場合は密葬はごく近親者ですませ、一般には案内をしません。

浄土宗では葬儀の法要は新亡（新たに亡なられた人）を極楽浄土に導くための下炬（あこいんどろう）引導が中心になっています。

下炬とは松明（たいまつ）で火をつける火葬の事で、引導とは新亡を浄土に導くためのものです。ですからこの引導を渡す瞬間が葬儀式での最も大切な時

となります。私たちは浄土宗の檀信徒ですから、僧侶が引導を渡す瞬間まではすくなくとも会葬者ではなく、法要に、すなわち祭壇の方に集中するよう心がけましょう。

この引導を渡したあと焼香になります。区別するとしたらここから告別式といえるでしょう。

葬儀と告別式は別のもの

親族の焼香、ついで一般会葬者の焼香になります。会葬者が多数予想される場合には、葬儀に引き続き告別式をする場合があります、その場合には葬儀は近親者ですませ、席を改め近親者は会葬者近くに並び感謝の気持ちをあらわします。

葬儀はあくまで故人のためのものであり、遺族や親族が故人の冥福を祈り、別れを告げるためのもので、告別式とは、故人の友人、知人が最後の別れをする儀式で、本来葬儀に引き続き会葬者全員で遺骨を墓地に埋葬する前に行なう儀式でした。

最近では、一般会葬者が火葬場まで行くことがないため、告別式は焼香を中心に行なわれるようになり、葬儀と告別式を同時に行なうことが多くなっています。

布施について

全日本仏教会では本来布施とは、慈しみの心にもとづいて行

われる極めて宗教的な行為で、人々の苦しみや悲しみに寄り添

い（無畏施）、人々と共に考え法を説く（法施）と位置づけ、

布施の額に関しては、布施をする人が決めるべきものという立場を示しています。

布施の種類

財 施… 金銭や衣服食料などの財を施す事。

法 施… 仏の教えを説く事。

無畏施… 災難などに遭っている者を慰めてその恐怖心を除く事。

その他に、雑宝蔵経に説かれる財物を損なわない七つの布施として、次の行いが説かれています。

眼 施… 好ましい眼差しで見ること。

和顔施（和顔悦色施）… 笑顔を見せる事。

言辞施… 粗暴でない、柔らかな言葉遣いをする事。

身 施… 立って迎えて礼拝する事。

心 施… 和と善の心で、深い供養を行う事。

床座施… 座る場所を譲る事。

房舎施… 家屋の中で自由に、行・来・座・臥を得させる事。

お布施というと、法事や葬儀の際の僧侶へのお札であると誤解されておられる方もいらっしゃると思いますが、上記のように宗教的な行為なのです。

無量寺でも全日本仏教会のこの見解に賛同しております。葬儀の際、お布施の額についてお尋ねを受けることがあります。が、お寺からどれだけ下さいとは申しません。

お寺では、お檀家の方が亡くなられた場合、ご臨終の時より、枕経、通夜、葬儀を経て四十九日まで、毎日、その方のご回向をいたします。

そのことをご理解の上、喪家におかれましては、お布施をしていただけますなら、幸いに存じます。